

基礎研 レポート

サステナビリティに関する意識と消費行動(2)

経済的なゆとり、人生の充足感があるほど積極的

生活研究部 上席研究員 久我 尚子
(03)3512-1878 kuga@nli-research.co.jp

1—はじめに～サステナビリティに関する意識や行動、ライフステージや職業、年収等による違いは？

[前稿](#)¹では、消費者のサステナビリティに関するキーワードの認知度や意識・行動の状況、日頃の消費生活について、性年代による違いに注目して捉えた。その結果、男性より女性で、また、高年齢ほどサステナブル意識が高く、日頃の消費生活でもエコバッグの持参をはじめとしたサステナビリティに関わる行動に積極的な傾向が見られた。なお、他年代と比べてZ世代を含む20歳代の一部ではサステナビリティを意識したボランティア活動や情報発信などに積極的に取り組む傾向があるほか、20歳代とシニア層のごく一部では売上の一部が寄付されるなど、製品を買うこと自体が社会貢献につながる行動に取り組む傾向も見られた。

本稿では、前稿で消費者の属性による違いがよくあらわれていたサステナビリティに関する意識や行動についての問いについて、あらたにライフステージや職業、年収等の違いにも注目して分析する。なお、分析には、前稿と同様にニッセイ基礎研究所が今年3月末に実施した調査²を用いる。また、複数の属性の傾向を把握するために、多変量解析を用いて図示化した結果を中心に見ていきたい。

2—サステナビリティに関する意識や行動～経済的なゆとりや人生の充足感があるほど積極的

1 | 因子分析の結果～「行動に積極的」と「高い意識を持つ」の2軸

調査ではサステナビリティについての意識や行動に関する11の項目³をあげて、それぞれどう思うか、「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」「考えたことがない」の6段階の選択肢を用意した。得られたデータに因子分析を行い、サステナビリティ

¹ 久我尚子「[サステナビリティに関する意識と消費行動](#)」、ニッセイ基礎研究所、基礎研レポート（2022/5/31）

² 「[第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査](#)」、調査時期は2022年3月23日～29日、調査対象は全国に住む20～74歳、インターネット調査、株式会社マクロミルのモニターを利用、有効回答2,584。

³ 前稿に記載の通り、調査では「地球や社会の持続可能性を話題にする人は意識が高いと思う」や「地球環境や社会問題に積極的に取り組む人は意識が高いと思う」という項目もあるが、直接的な自分自身の意識や行動ではないため、本分析では除外することとしている。

ィに関する意識や行動を構成する要因を分析した（図表1）。

11の項目は「行動に積極的」と「高い意識を持つ」という2つの要因に要約される。なお、分析前から項目を眺めれば結果の予想はつくようだが、あらためて因子分析を用いた理由は、複数の設問の回答結果を行動と意識の2つの要因として要約し、それぞれに対する因子得点を属性別に得ることで、2次元の図にマッピングし、視覚的に分かりやすく表現するためである。なお、前稿で示した属性別の詳細なデータ（各設問に対する、そう思うとの回答割合）は本文中ではなく付表に記載する。

なお、各因子の名称は構成する主な変数から命名している。第一因子を「行動に積極的」としたのは、影響の大きな変数に情報発信やボランティア活動、周囲との会話といった行動面の項目があがっていること、一方、第二因子を「高い意識を持つ」としたのは危機意識や社会貢献意識などの意識面の項目があがっているためである。

図表1 サステナビリティに関する意識や行動についての因子分析結果（n=2,584）

変数	第一因子	第二因子
	行動に積極的	高い意識を持つ
サステナビリティに関する情報を発信している	0.828	0.035
サステナビリティ性に関する情報を収集している	0.772	0.302
サステナビリティを意識して、具体的なボランティア活動をしている	0.759	0.109
サステナビリティについて家族や友人と話すことがある	0.699	0.278
コロナ禍の行動制約がなければ、サステナビリティを意識した活動をしていきたい	0.585	0.564
地球環境や社会問題に積極的に取り組む企業や組織で働きたい	0.559	0.366
地球環境や社会問題は他人事ではない	-0.019	0.790
サステナビリティについて今すぐに取り組まない手遅れになる	0.276	0.754
社会の一員として、何か社会のために役立ちたい	0.225	0.712
時間や経済的な余裕があれば、サステナビリティを意識した活動をしていきたい	0.539	0.589
サステナビリティを意識して生活をしている	0.545	0.574
固有値	5.835	1.651
累積寄与率（%）	53.049	68.058

（注1） 因子分析（最尤法、バリマックス回転）、因子数は固有値（1.0以上）とスクリープロットの形状から判断

（注2） 因子名は因子を構成する主な変数から決定

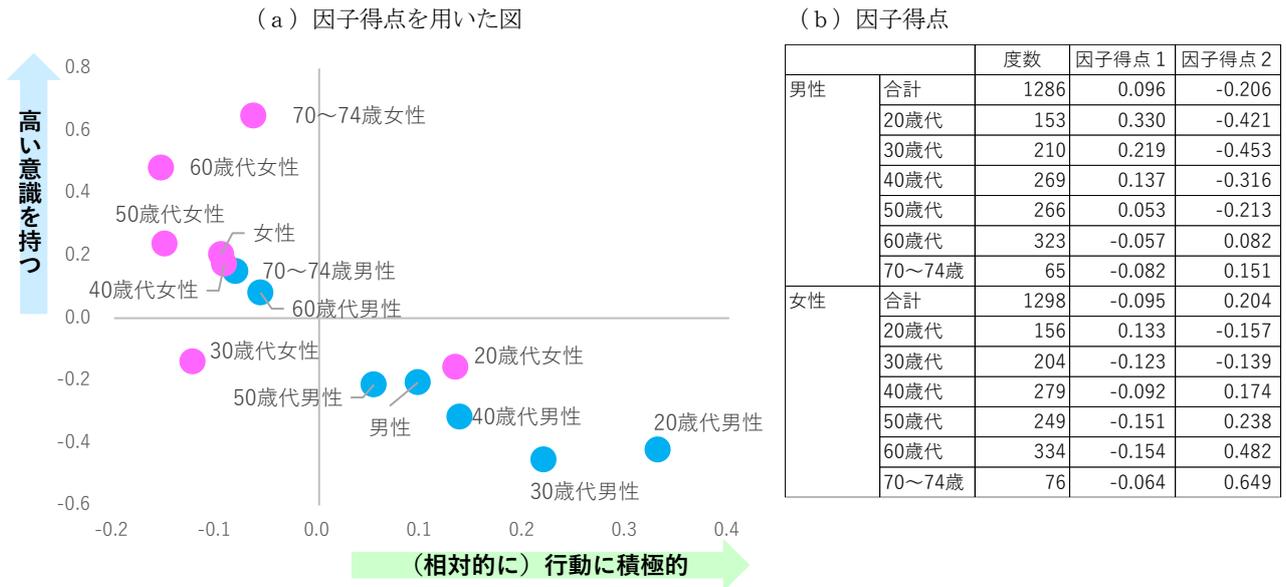
（注3） 因子負荷量0.5以上に網掛け

（資料） ニッセイ基礎研究所「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

2 | 性年代別の状況～男性より女性、高年齢ほど意識が高く、女性より男性、若いほど行動に積極的

前述の2つの要因に対するそれぞれの因子得点から得られた値を用いて2次元の図を描くと、図表2が得られる。図表2では上へ行くほど「高い意識を持つ」傾向があり、右へいくほど「行動に積極的」な傾向がある。ただし、あくまでも相対的な位置関係であるため、図を見る際は注意が必要だ。前稿で繰り返し述べた通り、現在のところ、日本の消費者には高い意識が醸成されつつある一方で、具体的な行動に取り組む消費者は少数派であり、意識と行動には隔たりがある。例えば、「サステナビリティを意識して、具体的なボランティア活動をしている」について、そう思うとの回答は20～74歳全体で13.0%にとどまり、最も高い20歳代でも22.7%である。よって、横軸の行動面については、右方向に位置するほど、あくまで相対的に行動に積極的な属性であると理解すべきである。

図表2 性年代別に見たサステナビリティに関する意識や行動の傾向



(注) それぞれの座標は図表1で得られた各因子に対するそれぞれの因子得点。因子得点は平均0、分散1に標準化された値。
 (資料) ニッセイ基礎研究所「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

図表2より、男性より女性の方が、また、年齢が高いほど意識は高い一方、女性より男性の方が、また、若いほど行動には相対的に積極的な傾向が見て取れる。

なお、意識の高さと行動の積極性をあわせもつ図の右上に位置する層が存在しないが、これは行動に最も積極的な20歳代男性であっても、高い意識を持つ割合が半数に満たないためである。20歳代男性の意識に関わる設問で、そう思うとの回答が最も高い「サステナビリティについて今すぐに取り組まないと手遅れになる」(37.3%)でも4割に満たない(付表1)。よって、現在のところ、性年代別に見ると、意識の高さと行動の積極性をあわせもつ層は存在しないことになる。

3 | ライフステージ別の状況～子育て終了世代で意識が高く、子育て世代で行動に積極的

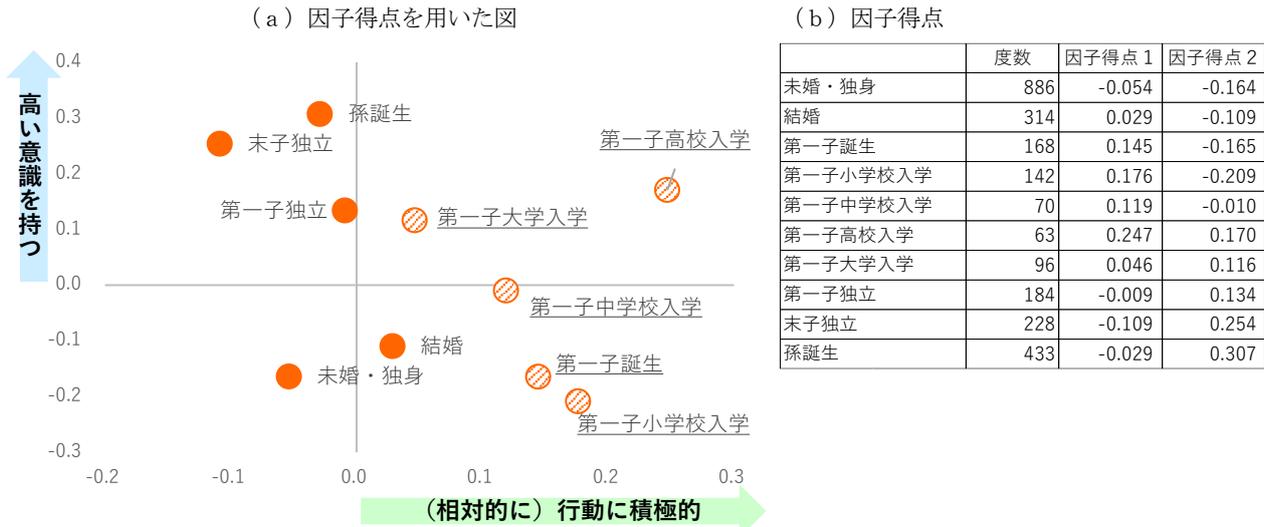
同様にライフステージ別に見ると、性年代別で見られた傾向と同様に、孫誕生や末子独立など高齢層の多い⁴子育てが終了した世代で意識が高い一方、第一子高校入学をはじめとした子育て世代で行動には相対的に積極的な傾向がある(図表3)。

また、第一子誕生から第一子大学入学までの子育て世代に注目すると、第一子小学校入学以下の子育てに比較的手のかかるライフステージよりも第一子高校入学や第一子大学入学などの子育てがある程度落ち着いたライフステージの方が高い意識を持つ傾向がある。

また、第一子高校入学を中心に、行動に相対的に積極的な傾向もあり、右上の象限に位置する第一子高校入学と第一子大学入学は高い意識と行動の積極性をあわせもつ層と言える。なお、第一子高校入学では行動に関わる全ての設問で、そう思うとの回答が全体を上回る(付表2)。特に「サステナビリティについて家族や友人と話すことがある」(25.4%で全体16.3%より+9.1%pt)では全体を約1割上回る(付表2)。

⁴ 60歳以上は調査対象全体(20~74歳)では30.9%の一方、孫誕生では87.1%、末子独立では65.4%

図表3 ライフステージ別に見たサステナビリティに関する意識や行動の傾向



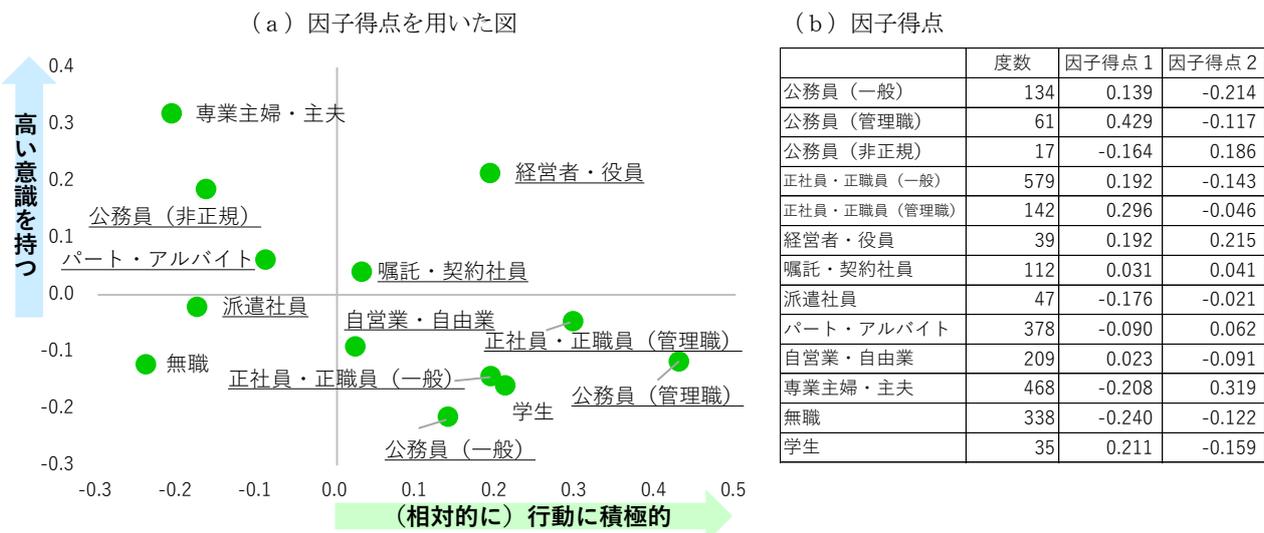
(注1) それぞれの座標は図表1で得られた各因子に対するそれぞれの因子得点。因子得点は平均0、分散1に標準化された値。
 (注2) 子育て世代は下線
 (資料) ニッセイ基礎研究所「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

4 | 職業別の状況～専業主婦で意識が高く、経営者・役員や管理職層で行動に積極的

職業別に見ると、女性や高齢層が比較的多い専業主婦・主夫⁵で意識が高い一方、就業者や学生の方が行動には相対的に積極的な傾向がある（図表4）。

また、経営者・役員は右上の象限に位置し、高い意識と行動の積極性をあわせもつ層と言える。なお、経営者・役員ではボランティア活動や情報発信には必ずしも積極的ではないが、「サステナビリティについて家族や友人と話すことがある」（30.8%で全体16.3%より+14.5%pt）でそう思うとの回答が3割を超えて全体の2倍程度を占める（付表3）。

図表4 職業別に見たサステナビリティに関する意識や行動の傾向



(注1) それぞれの座標は図表1で得られた各因子に対するそれぞれの因子得点。因子得点は平均0、分散1に標準化された値。
 (注2) 就業者に下線
 (資料) ニッセイ基礎研究所「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

⁵ 調査対象全体では女性50.2%、60歳以上30.9%の一方、専業主婦・主夫では女性98.5%、60歳以上51.3%。

また、意識は女性が比較的多いパート・アルバイトや高齢層が比較的多い嘱託・契約社員などの非正規雇用者⁶の方が正規雇用者より高いが、行動は現役世代が多い正規雇用者の方が相対的に積極的な傾向がある。

なお、正規雇用者では一般（管理職以外）より管理職の方が、また、管理職では民間企業等の社員より公務員の方が行動に積極的な傾向があり、公務員（管理職）では行動に関わる全ての設問で、そう思うとの回答が全体を上回る（付表3）。特に「サステナビリティに関する情報を発信している」（24.6%で全体8.4%より+16.2%pt）や「サステナビリティに関する情報を収集している」（24.6%で全体12.7%より+11.9%pt）では、それぞれ全体を1割以上上回る。公務員は政策として持続可能な社会づくりを推進する立場にあることや、もともと社会貢献意識が高いことなど影響しているのだろう。

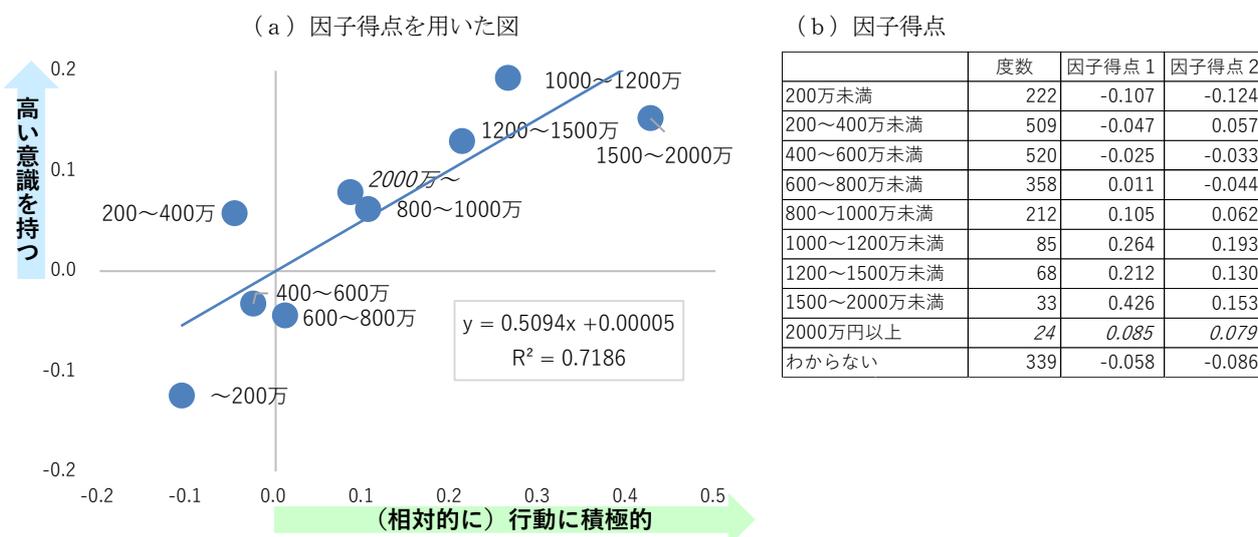
また、経営者・役員や管理職で行動に積極的な背景には、コーポレートガバナンスコードにてサステナビリティを巡る課題への取り組みが大幅に拡充されるなど、すでに企業経営や事業活動においてサステナビリティという観点が必須のものとなっていることがあげられる。

5 | 世帯年収別の状況～経済的なゆとりのある高年収世帯ほど意識が高く、行動にも積極的

世帯年収別に見ると、世帯年収が高いほど意識が高く、行動にも相対的に積極的な傾向があり、世帯年収800万円以上は右上の象限に位置するため、高い意識と行動の積極性をあわせもつ層と言える（図表5）。なお、近似曲線を描くと決定係数は0.7を超えており、世帯年収の高さと、サステナビリティに関する高い意識と行動の積極性をあわせもつ傾向は比例関係にあり、経済的な余裕があるほどサステナブル意識が高く、取り組みにも積極的であると言える。

なお、世帯年収800万円以上では意識と行動に関わる全ての設問で、そう思うとの回答が全体を上

図表5 世帯年収別に見たサステナビリティに関する意識や行動の傾向



(注1) それぞれの座標は図表1で得られた各因子に対するそれぞれの因子得点。因子得点は平均0、分散1に標準化された値。

(注2) 斜線は参考値。

(資料) ニッセイ基礎研究所「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

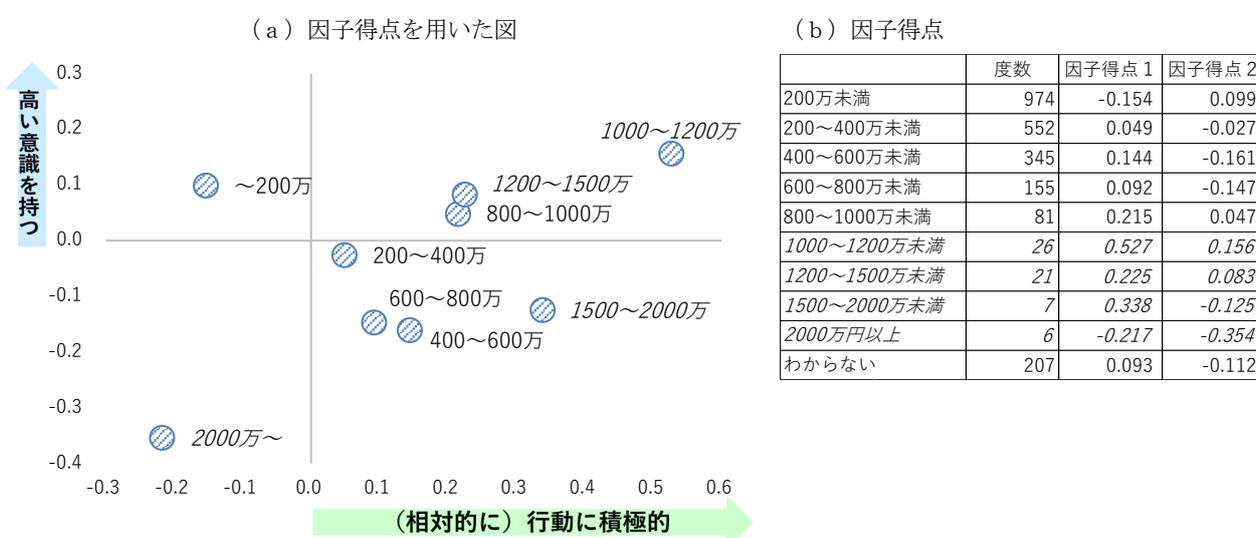
⁶ 調査対象全体では女性50.2%、60歳以上30.9%の一方、パート・アルバイトでは女性78.0%、嘱託・契約社員では60歳以上57.1%。

回る（付表4）。特に世帯年収1,500万円以上では行動に関わる設問の全てで全体を1割以上上回り、特に「サステナビリティに関する情報を収集している」（42.4%で全体12.7%より+29.7%pt）ではそう思うとの回答が4割を超えて全体を約3割上回る。

6 | 個人年収別の状況～世帯年収ほどではないが高収入層で意識が高く、行動にも積極的な傾向

個人年収別に見ると、参考値は多いものの、高収入層の方が右上に位置する傾向があるようだ（図表6）。個人年収では、世帯年収で見たほど年収とサステナビリティに関する高い意識と行動をあわせもつ傾向は一致しないが、経済的なゆとりは本人の収入だけでなく、世帯全体の収入が大きく影響することが考えられる。一方で個人年収200万円未満では収入は少ないながらも、意識は比較的高いが、これは女性が多く高年齢層も比較的多い影響と見られる⁷。

図表6 個人年収別に見たサステナビリティに関する意識や行動の傾向



(注) それぞれの座標は図表1で得られた各因子に対するそれぞれの因子得点。因子得点は平均0、分散1に標準化された値。

(資料) ニッセイ基礎研究所「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

7 | 人生の充足感や経済不安など意識別の状況～充足感が高く、経済不安が弱いほど意識が高く積極的

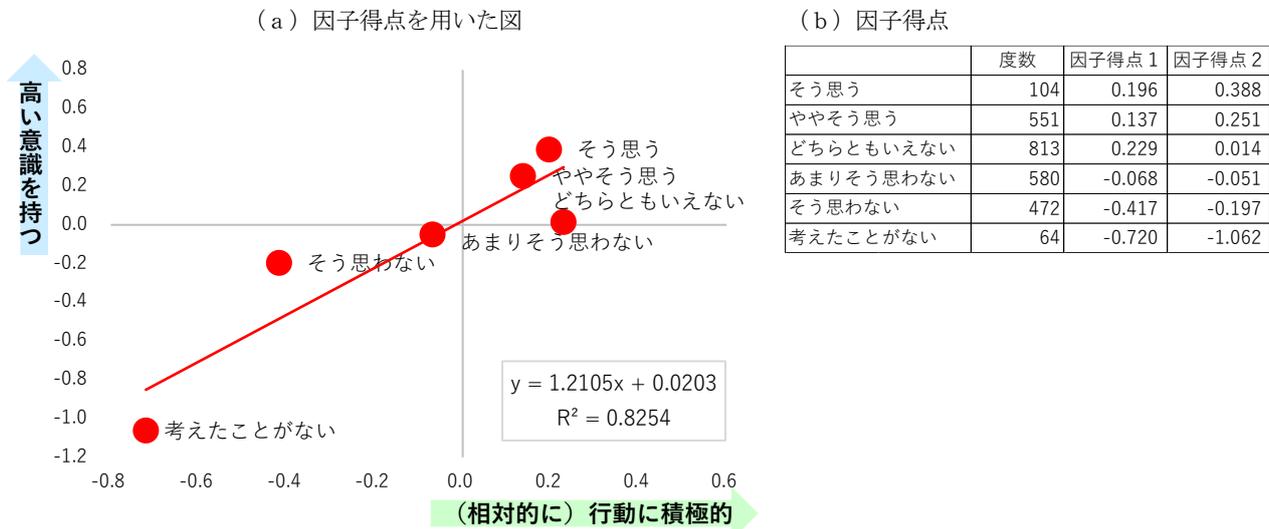
最後に、意識面の違いについて見ていく。調査では「自分は望む生き方ができていると思う」との設問について、どう思うかをたずねているのだが、肯定的に捉えているほど意識が高く、行動にも相対的に積極的な傾向がある（図表7）。また、そう思うとややそう思うと肯定的に回答した層は右上の象限に位置し、サステナビリティに関する高い意識と行動の積極性をあわせもつ層と言える。なお、近似曲線を描くと決定係数は0.8を超えており、肯定的に捉えていることと、サステナビリティに関する高い意識と行動の積極性をあわせもつ傾向は比例関係にあり、希望通りの人生を歩めていると感じ、人生の充足感が高いほどサステナブル意識が高く、行動にも積極的であると言える。

つまり、サステナビリティに関わる意識が高く、取り組みにも積極的であると言える。ただし、因果関係は不明であり、社会貢献活動などに積極的に取り組んでいるために、充足感が高く、自分の人生に対して肯定的であるのかもしれない。

⁷ 調査対象全体では女性50.2%、60歳以上30.9%の一方、個人年収200万円未満では女性76.1%、60歳以上38.4%。

なお、肯定的な層では意識と行動に関わる全ての設問で、そう思うとの回答が全体を上回る（付表6）。特に、「自分は望む生き方ができていると思う」との項目について、そう思うと回答した層のうち、「サステナビリティを意識して生活をしている」（51.0%で全体27.7%より+23.3%pt）では、そう思うとの回答が過半数を、「サステナビリティについて家族や友人と話すことがある」（39.4%で全体16.3%より+23.1%pt）では約4割を占めて、それぞれ全体を2割以上上回る。

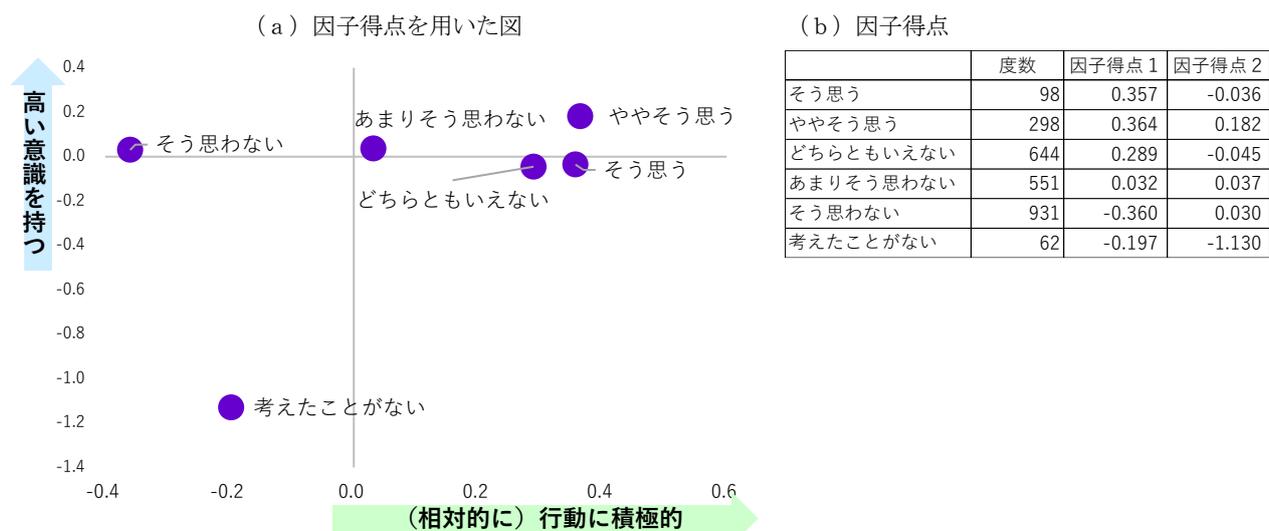
図表7 「自分は望む生き方ができていると思う」かどうか別に見たサステナビリティに関する意識や行動の傾向



(注) それぞれの座標は図表1で得られた各因子に対するそれぞれの因子得点。因子得点は平均0、分散1に標準化された値。
 (資料) ニッセイ基礎研究所「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

また、「自分の将来の暮らしに経済的な不安はない」との設問については、そう思うなど不安がないとの回答ほど右側に位置し、相対的に行動に積極的である傾向が見られる（図表8）。世帯収入で見られたほどではないが、意識面についても経済的なゆとりがある方がサステナビリティに関する行動には積極的であるようだ。

図表8 「自分の将来の暮らしに経済的な不安はない」かどうか別に見たサステナビリティに関する意識や行動の傾向



(注) それぞれの座標は図表1で得られた各因子に対するそれぞれの因子得点。因子得点は平均0、分散1に標準化された値。
 (資料) ニッセイ基礎研究所「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

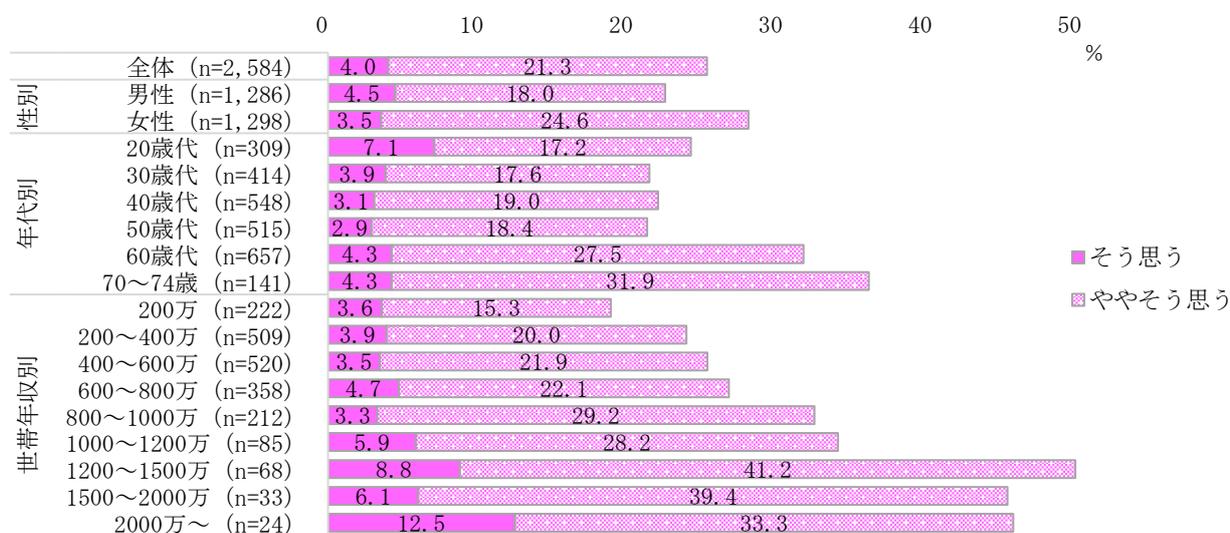
8 | 属性別の人生の充足感の状況～男性より女性、シニア層、世帯年収が高いほど充足感が高い

前述のように、サステナビリティに関する高い意識と行動の積極性には人生の充足感の高さが大きく影響しているようだが、最後に属性別に人生の充足感について確認したい。

「自分は望む生き方ができていると思う」との設問に対して、そう思うとの回答を見ると、全体では25.3%を占め、属性別には男性より女性で、年代別には60歳代以上で、世帯年収別には800万円以上で高く、それぞれ全体を+5%pt以上上回る（図表9）。特に世帯年収1,200万円以上では4割を超えて全体を2割以上上回る。

つまり、女性やシニア層などサステナビリティに関する意識が高い層では、人生の充足感も高い傾向がある。また、世帯年収が高く、経済的なゆとりのある層では意識の高さに加えて、行動にも相対的に積極的であったが、人生の充足感が大幅に高い。

図表9 属性別に見た「自分は望む生き方ができていると思う」について、そう思うとの回答割合



(注1) 「そう思う」と「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」「考えたことがない」の6段階でたずねて得た結果のうち、「そう思う」と「ややそう思う」の選択割合の合計値

(注2) 世帯年収2,000万円以上は参考値

(資料) ニッセイ基礎研究所「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

3——おわりに～意識は高くても割高なサステナブル製品は選ばれにくい、企業の知恵の見せどころ

サステナビリティに関する高い意識と行動の積極性には、経済的なゆとりと人生の充足感の高さが密接に関係している。また、両者の関係も深い。そうなると、物価高で家計の負担が増す中で一般消費者にとっては、サステナビリティに関わる取り組みは距離があるように見えるかもしれない。しかし、消費者全体で高い意識が醸成されつつある中、やはり今後は安価でも地球環境や人権問題に課題のある製品は一層、選ばれにくくなるだろう。

また、日本の消費者では約2年半続くコロナ禍とロシアのウクライナ侵攻等の影響で世界情勢への関心が高まる中で、欧米の物価高や賃金上昇の状況から日本が取り残されていること、また、長年、企業がコスト増を価格転嫁できないことが賃金上昇の抑制要因にもなっていることに気づき始めたの

ではないか。コロナ禍で家計の貯蓄が増え、足元では家計の余力があることも相まって、消費者は物価高を短期的には受け入れていくだろう。しかし、やはり賃金が増えないとすれば、何らかの消費支出を抑制する必要がある。そうすると、サステナブル意識が高まる中では、必ずしも安くなくても長く使える品質の良い製品を買う、必要なモノだけを買う、中古品やシェアリングサービスを活用するなど、持続可能な社会づくりに貢献できるようなモノの選び方が増えていくのではないかと。

一方、リサイクル素材を使った新製品の開発やサプライチェーンの見直しなど、企業にとってサステナビリティを配慮した製品の製造にはコストがかかることも多い。しかし、前稿で見た通り、「価格が多少高くても、環境や社会問題に配慮された製品を買う」「価格が多少高くても、環境や社会問題に取り組む企業の製品を買う」という消費者は1割に満たずに少数派である。よって、サステナビリティを配慮しているからといって割高な製品もまた一般消費者には選ばれにくいだろう。

さじ加減が難しいようだが、企業の知恵が試されるころだ。例えば、循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」では、洗剤やシャンプー、ガムといった従来はプラスチックの容器に入れて売られていた製品を、ステンレスやガラスなどの耐久性が高く繰り返し利用しやすい容器に入れて売ることによって、製品購入時は容器代がかさみ割高になったとしても、容器を専用装置に返却すると、アプリを通じて容器代がキャッシュバックされ、結果的に消費者の支払う額は従来製品の購入時と同程度になるといった取り組みをしている。つまり、消費者がサステナビリティに向けた取り組みをすることで、必ずしも安くなるわけではないが、決して割高にはならない、そんな方向性もあるだろう。

世界的にサステナビリティに関わる取り組みが加速する中で、消費者の意識や行動も急速に変わる可能性がある。ニッセイ基礎研究所では今後も継続的に分析を実施していく予定である。

付表1 性年代別に見たサステナビリティについての意識や行動でそう思うとの回答割合 (%)

(a) 男性

		全体	男性						
			合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70~74歳
度数		2584	1286	153	210	269	266	323	65
意識面	地球環境や社会問題は他人事ではない	60.8	49.8	35.3	35.2	44.2	50.0	66.6	69.2
	サステナビリティについてすぐに取り組みないと手遅れになる	46.4	39.5	37.3	31.0	33.1	38.3	50.5	49.2
	社会の一員として、何か社会のために役立ちたい	46.0	40.5	32.7	31.0	38.3	37.2	51.7	56.9
	時間や経済的な余裕があれば、サステナビリティを意識したい	33.1	30.6	35.9	31.0	28.6	24.4	32.8	38.5
	コロナ禍の制約がなければ、サステナビリティを意識したい	26.5	22.5	23.5	23.3	21.9	19.9	23.2	26.2
	地球環境や社会問題に積極的に取り組む企業や組織で働きたい	22.4	20.7	25.5	23.3	19.7	19.5	18.9	18.5
行動面	サステナビリティを意識して生活をしている	27.7	24.0	28.8	20.5	25.7	18.0	26.3	29.2
	サステナビリティについて家族や友人と話すことがある	16.3	14.5	22.2	18.6	12.6	10.5	13.3	13.8
	サステナビリティを意識してボランティア活動をしている	13.0	14.4	25.5	18.1	15.2	11.7	9.0	10.8
	サステナビリティに関する情報を収集している	12.7	13.1	17.6	14.8	13.0	9.8	12.4	15.4
	サステナビリティに関する情報を発信している	8.4	10.0	21.6	15.2	8.2	6.4	6.2	6.2

(b) 女性

		全体	女性						
			合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70~74歳
度数		2584	1298	156	204	279	249	334	76
意識面	地球環境や社会問題は他人事ではない	60.8	71.7	53.2	56.9	70.6	72.7	84.1	96.1
	サステナビリティについてすぐに取り組みないと手遅れになる	46.4	53.2	42.3	42.2	45.9	53.0	66.8	73.7
	社会の一員として、何か社会のために役立ちたい	46.0	51.5	45.5	37.7	50.9	51.0	59.0	71.1
	時間や経済的な余裕があれば、サステナビリティを意識したい	33.1	35.6	35.3	31.4	30.8	37.8	38.3	46.1
	コロナ禍の制約がなければ、サステナビリティを意識したい	26.5	30.4	27.6	27.0	26.5	30.1	34.7	42.1
	地球環境や社会問題に積極的に取り組む企業や組織で働きたい	22.4	24.1	30.1	25.5	25.4	23.7	21.0	18.4
行動面	サステナビリティを意識して生活をしている	27.7	31.4	27.6	20.6	22.6	35.3	39.8	50.0
	サステナビリティについて家族や友人と話すことがある	16.3	18.1	20.5	13.2	16.5	16.1	20.7	27.6
	サステナビリティを意識してボランティア活動をしている	13.0	11.7	19.9	9.3	10.0	9.2	11.4	17.1
	サステナビリティに関する情報を収集している	12.7	12.3	16.7	12.3	10.4	7.6	13.5	21.1
	サステナビリティに関する情報を発信している	8.4	6.9	14.7	9.8	6.1	3.2	5.1	6.6

(注1) 全体より+5%以上をピンク色、-5%以下を水色で網掛け

(注2) 各項目に対して「そう思う」と「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」「考えたことがない」の6段階でたずねて得た結果のうち、「そう思う」と「ややそう思う」の選択割合の合計値

(資料) ニッセイ基礎研究所「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

※以下、全て注記と資料は同じため、表記省略。

付表2 ライフステージ別に見たサステナビリティについての意識や行動でそう思うとの回答割合 (%)

		全体	未婚・独身	結婚	第一子誕生	第一子小学校入学	第一子中学校入学	第一子高校入学	第一子大学入学	第一子独立	末子独立	孫誕生
度数		2584	886	314	168	142	70	63	96	184	228	433
意識面	地球環境や社会問題は他人事ではない	60.8	52.8	57.3	51.8	50.7	55.7	65.1	64.6	69.6	71.1	76.7
	サステナビリティについてすぐに取り組みないと手遅れになる	46.4	41.8	39.5	35.7	35.9	40.0	49.2	54.2	47.8	59.2	60.0
	社会の一員として、何か社会のために役立ちたい	46.0	38.3	42.7	41.7	36.6	47.1	58.7	52.1	56.0	50.9	58.9
	地球環境や社会問題に積極的に取り組む人は意識が高いと思う	42.3	36.7	39.8	41.7	35.9	34.3	41.3	50.0	43.5	52.6	52.0
	サステナビリティを話題にする人は意識が高いと思う	34.0	29.3	30.6	33.3	27.5	32.9	34.9	40.6	37.0	39.9	42.7
	時間や経済的な余裕があれば、サステナビリティを意識したい	33.1	29.8	32.2	38.7	31.0	28.6	33.3	32.3	38.0	36.8	35.8
	コロナ禍の制約がなければ、サステナビリティを意識したい	26.5	21.9	25.8	30.4	28.9	25.7	27.0	26.0	27.7	32.5	30.5
行動面	地球環境や社会問題に積極的に取り組む企業や組織で働きたい	22.4	21.9	22.0	28.6	23.9	21.4	34.9	22.9	23.4	20.2	19.9
	サステナビリティを意識して生活をしている	27.7	22.9	26.1	26.8	23.2	17.1	33.3	35.4	28.3	29.8	38.1
	サステナビリティについて家族や友人と話すことがある	16.3	12.8	17.8	16.1	14.1	17.1	25.4	18.8	19.0	19.3	18.7
	サステナビリティを意識してボランティア活動をしている	13.0	11.7	12.7	16.7	17.6	15.7	19.0	15.6	13.6	8.8	13.2
	サステナビリティに関する情報を収集している	12.7	11.1	12.7	15.5	13.4	8.6	19.0	11.5	15.8	12.3	13.9
サステナビリティに関する情報を発信している	8.4	8.1	9.6	12.5	13.4	7.1	12.7	9.4	8.2	5.3	6.2	

付表3 職業別に見たサステナビリティについての意識や行動でそう思うとの回答割合 (%)

	全体	公務員 (一般)	公務員 (管理職)	公務員 (非正規)	正社員 ・正職員 (一般)	正社員 ・正職員 (管理職)	経営者 ・役員	嘱託 ・契約社 員	派遣社員	パート・ アルバイト	自営業 ・自由業	専業主婦 ・主夫	無職	学生	その他	
度数	2584	134	61	17	579	142	39	112	47	378	209	468	338	35	25	
意識面	地球環境や社会問題は他人事ではない	60.8	51.5	52.5	64.7	50.8	56.3	59.0	63.4	53.2	63.8	55.5	77.8	63.6	45.7	56.0
	サステナビリティについてすぐに取り組まないと手遅れになる	46.4	44.8	49.2	64.7	39.9	46.5	51.3	50.9	48.9	46.8	45.9	54.9	43.2	48.6	32.0
	社会の一員として、何か社会のために役立ちたい	46.0	45.5	49.2	52.9	40.8	48.6	59.0	48.2	44.7	46.3	49.8	54.5	37.9	42.9	36.0
	時間や経済的な余裕があれば、サステナビリティを意識したい	33.1	35.8	47.5	41.2	32.0	38.7	35.9	34.8	29.8	35.4	30.1	33.5	26.6	42.9	20.0
	コロナ禍の制約がなければ、サステナビリティを意識したい	26.5	25.4	27.9	17.6	25.4	33.8	20.5	32.1	29.8	28.0	21.1	29.7	20.7	40.0	16.0
	地球環境や社会問題に積極的に取り組む企業や組織で働きたい	22.4	26.1	37.7	17.6	27.1	32.4	17.9	26.8	21.3	23.3	13.4	17.1	16.0	42.9	12.0
行動面	サステナビリティを意識して生活をしている	27.7	29.1	31.1	41.2	25.4	28.9	28.2	30.4	25.5	27.2	34.0	19.8	37.1	16.0	
	サステナビリティについて家族や友人と話すことがある	16.3	17.2	21.3	5.9	15.7	24.6	30.8	17.0	12.8	18.0	12.4	19.4	9.2	5.7	16.0
	サステナビリティを意識してボランティア活動をしている	13.0	19.4	21.3	11.8	17.3	20.4	5.1	12.5	10.6	11.1	13.9	10.5	5.0	22.9	4.0
	サステナビリティに関する情報を収集している	12.7	12.7	24.6	11.8	15.2	18.3	15.4	10.7	17.0	11.4	13.9	9.6	8.6	11.4	20.0
	サステナビリティに関する情報を発信している	8.4	12.7	24.6	5.9	11.2	18.3	5.1	8.0	10.6	6.9	6.2	3.6	3.8	20.0	8.0

付表4 世帯年収別に見たサステナビリティについての意識や行動でそう思うとの回答割合 (%)

	全体	200万 未満	200～ 400万 未満	400～ 600万 未満	600～ 800万 未満	800～ 1000万 未満	1000～ 1200万 未満	1200～ 1500万 未満	1500～ 2000万 未満	2000 万円 以上	わから ない	
度数	2584	222	509	520	358	212	85	68	33	24	339	
意識面	地球環境や社会問題は他人事ではない	60.8	56.8	62.1	61.5	59.8	60.8	69.4	61.8	66.7	54.2	56.3
	サステナビリティについてすぐに取り組まないと手遅れになる	46.4	48.6	48.3	45.2	45.8	49.5	49.4	50.0	57.6	54.2	39.5
	社会の一員として、何か社会のために役立ちたい	46.0	36.5	46.2	44.8	49.2	54.7	55.3	60.3	66.7	45.8	36.3
	時間や経済的な余裕があれば、サステナビリティを意識したい	33.1	25.7	35.8	30.2	36.3	37.3	38.8	39.7	54.5	16.7	27.7
	コロナ禍の制約がなければ、サステナビリティを意識したい	26.5	21.6	27.7	24.4	29.1	28.8	29.4	26.5	39.4	8.3	26.3
	地球環境や社会問題に積極的に取り組む企業や組織で働きたい	22.4	18.9	20.6	19.8	28.5	28.3	27.1	27.9	39.4	20.8	17.7
行動面	サステナビリティを意識して生活をしている	27.7	25.7	26.9	27.3	27.9	29.7	37.6	33.8	39.4	37.5	22.4
	サステナビリティについて家族や友人と話すことがある	16.3	8.1	15.5	15.4	17.6	19.3	30.6	23.5	27.3	33.3	15.9
	サステナビリティを意識してボランティア活動をしている	13.0	7.7	12.8	11.3	17.0	16.5	20.0	17.6	27.3	12.5	10.6
	サステナビリティに関する情報を収集している	12.7	9.0	13.4	10.8	12.8	16.5	22.4	23.5	42.4	20.8	8.3
	サステナビリティに関する情報を発信している	8.4	5.0	7.5	7.5	10.6	12.3	15.3	16.2	21.2	4.2	6.5

(注) 斜字は参考値

付表5 個人年収別に見たサステナビリティについての意識や行動でそう思うとの回答割合 (%)

	全体	200万 未満	200～ 400万 未満	400～ 600万 未満	600～ 800万 未満	800～ 1000万 未満	1000～ 1200万 未満	1200～ 1500万 未満	1500～ 2000万 未満	2000 万円 以上	わから ない	
度数	2584	974	552	345	155	81	26	21	7	6	207	
意識面	地球環境や社会問題は他人事ではない	60.8	68.1	58.2	54.2	51.6	51.9	65.4	52.4	42.9	33.3	53.1
	サステナビリティについてすぐに取り組まないと手遅れになる	46.4	50.5	47.6	42.0	34.2	50.6	69.2	42.9	14.3	50.0	38.6
	社会の一員として、何か社会のために役立ちたい	46.0	47.4	45.5	43.8	47.1	56.8	53.8	57.1	57.1	50.0	34.3
	時間や経済的な余裕があれば、サステナビリティを意識したい	33.1	32.5	33.3	33.9	35.1	30.9	53.8	47.6	14.3	0.0	28.0
	コロナ禍の制約がなければ、サステナビリティを意識したい	26.5	27.7	25.5	26.7	23.9	23.5	34.6	23.8	0.0	16.7	26.1
	地球環境や社会問題に積極的に取り組む企業や組織で働きたい	22.4	20.0	24.1	25.8	23.2	30.9	38.5	23.8	28.6	16.7	17.9
行動面	サステナビリティを意識して生活をしている	27.7	29.6	24.5	29.9	22.6	32.1	50.0	19.0	14.3	16.7	22.7
	サステナビリティについて家族や友人と話すことがある	16.3	16.1	16.3	20.0	10.3	13.6	42.3	14.3	14.3	50.0	16.4
	サステナビリティを意識してボランティア活動をしている	13.0	11.1	14.7	16.8	12.9	16.0	26.9	4.8	0.0	16.7	12.1
	サステナビリティに関する情報を収集している	12.7	11.1	13.4	15.4	12.9	21.0	38.5	23.8	0.0	16.7	10.1
	サステナビリティに関する情報を発信している	8.4	6.2	10.0	12.5	9.7	13.6	30.8	4.8	0.0	0.0	6.8

(注) 斜字は参考値

付表6 「自分は望む生き方ができていると思う」かどうか別に見たサステナビリティについての意識や行動で
 そう思うとの回答割合 (%)

	度数	全体	自分は望む生き方ができていると思う					考えたこと がない
			そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまそう 思わない	そう思わな い	
	2584	2584	104	551	813	580	472	64
意識面	地球環境や社会問題は他人事ではない	60.8	75.0	72.6	56.3	58.3	57.8	37.5
	サステナビリティについてすぐに取り組まないと手遅れになる	46.4	65.4	59.2	42.3	42.4	43.0	18.8
	社会の一員として、何か社会のために役立ちたい	46.0	69.2	60.3	44.0	42.2	36.9	12.5
	時間や経済的な余裕があれば、サステナビリティを意識したい	33.1	53.8	43.0	32.1	29.8	25.4	12.5
	コロナ禍の制約がなければ、サステナビリティを意識したい	26.5	44.2	34.5	25.1	25.3	19.7	6.3
地球環境や社会問題に積極的に取り組む企業や組織で働きたい	22.4	32.7	32.3	19.6	19.7	18.6	9.4	
行動面	サステナビリティを意識して生活をしている	27.7	51.0	41.6	24.7	22.4	19.9	12.5
	サステナビリティについて家族や友人と話すことがある	16.3	39.4	24.3	16.2	11.7	9.1	6.3
	サステナビリティを意識してボランティア活動をしている	13.0	24.0	19.4	12.4	11.4	6.6	10.9
	サステナビリティに関する情報を収集している	12.7	29.8	21.1	12.1	9.3	5.7	4.7
	サステナビリティに関する情報を発信している	8.4	22.1	14.9	8.0	6.4	1.9	3.1

付表7 「自分の将来の暮らしに経済的な不安はない」かどうか別に見たサステナビリティについての意識や行動で
 そう思うとの回答割合 (%)

	度数	全体	自分の将来の暮らしに経済的な不安はない					考えたこと がない
			そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまそう 思わない	そう思わな い	
	2584	2584	98	298	644	551	931	62
意識面	地球環境や社会問題は他人事ではない	60.8	55.1	68.1	51.2	61.9	67.3	25.8
	サステナビリティについてすぐに取り組まないと手遅れになる	46.4	58.2	58.1	42.1	45.0	46.7	24.2
	社会の一員として、何か社会のために役立ちたい	46.0	51.0	57.4	40.5	47.4	46.1	27.4
	時間や経済的な余裕があれば、サステナビリティを意識したい	33.1	46.9	47.3	30.9	31.4	30.5	19.4
	コロナ禍の制約がなければ、サステナビリティを意識したい	26.5	43.9	39.3	23.4	27.0	23.0	16.1
地球環境や社会問題に積極的に取り組む企業や組織で働きたい	22.4	35.7	34.6	18.8	20.3	21.1	19.4	
行動面	サステナビリティを意識して生活をしている	27.7	48.0	46.3	26.2	26.7	21.5	22.6
	サステナビリティについて家族や友人と話すことがある	16.3	41.8	27.2	15.7	14.9	11.6	14.5
	サステナビリティを意識してボランティア活動をしている	13.0	26.5	24.5	16.5	9.4	7.4	17.7
	サステナビリティに関する情報を収集している	12.7	30.6	24.8	12.0	9.6	9.0	17.7
	サステナビリティに関する情報を発信している	8.4	20.4	21.5	7.9	6.4	4.3	12.9

付表8 属性別に見た「自分の将来の暮らしに経済的な不安はない」かについての回答割合 (%)

	度数	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまそう 思わない	そう思わな い	考えたこと がない	
全体 (n=2,584)	2584	4.0	21.3	31.5	22.4	18.3	2.5	
性別	男性 (n=1,286)	1286	4.5	18.0	32.8	24.0	18.7	2.0
	女性 (n=1,298)	1298	3.5	24.6	30.1	21.0	17.9	2.9
年代別	20歳代 (n=309)	309	7.1	17.2	28.2	23.9	16.8	6.8
	30歳代 (n=414)	414	3.9	17.6	26.1	25.6	23.4	3.4
	40歳代 (n=548)	548	3.1	19.0	32.8	21.7	21.0	2.4
	50歳代 (n=515)	515	2.9	18.4	31.3	23.7	22.1	1.6
	60歳代 (n=657)	657	4.3	27.5	33.9	19.9	13.1	1.2
	70~74歳 (n=141)	141	4.3	31.9	38.3	19.9	5.7	0.0
世帯年収別	200万 (n=222)	222	3.6	15.3	33.3	17.1	27.5	3.2
	200~400万 (n=509)	509	3.9	20.0	29.1	22.4	21.8	2.8
	400~600万 (n=520)	520	3.5	21.9	31.0	27.3	13.3	3.1
	600~800万 (n=358)	358	4.7	22.1	32.7	23.2	15.6	1.7
	800~1000万 (n=212)	212	3.3	29.2	32.5	18.9	15.1	0.9
	1000~1200万 (n=85)	85	5.9	28.2	37.6	15.3	10.6	2.4
	1200~1500万 (n=68)	68	8.8	41.2	27.9	17.6	4.4	0.0
	1500~2000万 (n=33)	33	6.1	39.4	24.2	12.1	15.2	3.0
	2000万~ (n=24)	24	12.5	33.3	25.0	8.3	20.8	0.0
わからない	339	3.5	15.6	32.7	24.2	21.2	2.7	